

第4回ジョブ・カード制度推進会議における主なご意見

1. 議題1（ジョブ・カード制度推進に係る当面の重点事項の進捗状況）

- 創造社デザイン専門学校の事例について、インターンシップの結果として、企業の評価と自分の評価を相互にやり取りしそれが記載されていることは先進的。就職先の業界でできることを学校側が明示、成績評価し、それを学生自身がどのように受け止め、就職していくのかまで記載されていれば、就職後にどういうものが付加されると再評価されるか分かることになり、就職の場面だけでなく生涯に渡るツールになり得る可能性を感じる。
- 大学、専門学校におけるジョブ・カードの活用事例をモデルケースとしてスタートしたということは非常に重要であり、学生が就職のためにどう活かしていくのか検証することが大事。民間の就職サイトの評価や企業との連携を通じて、ジョブ・カードがシームレスなプラットフォームとして活用されていけばよいのでは。
- 自分のキャリアのデータベースとして、学校で学ぶ、訓練を受ける、活動するごとにジョブ・カードがどれだけ充実した内容になれるかが大事。ユーザーのニーズに応じた出力書式に変換して印刷できるように充実させると個人のメリットが出てくる。
- スマホの活用比率が低いので、スマホの普及を図ることが必要。40代、50代もジョブ・カードを作っているというデータを踏まえ、中高年の人がどううまく使いこなせるのかということにも目を配る必要。
- キャリアプランを作成する上で必要な情報源や支援ツールが総合サイトとリンクし、それを活用しながらジョブ・カードを作成できようになるなど総合サイトの機能を高めていけばよいのでは。

2. 議題2（ジョブ・カード制度関係の平成29年度の概算要求等）

- 雇用型訓練を実施するためには多くの書類を作成する事務負担があるが、中小企業の事務負担軽減をお願いしたい。
- ジョブ・カードを活用する機関（大学、専門学校など）においてカスタマイズ可能な仕組みとすることが有効ではないか。
- 活用事例の調査研究では、雇用型訓練を活用する企業への支援等実施事業を実施して得た課題、事例、手法等の蓄積を組み込むとともにジョブ・カードセンターと連携していただきたい。